

令和4年度 江戸川区立南葛西中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

<p>学校教育目標</p> <p>人権尊重の精神を基に国際社会に貢献できる日本人の育成</p> <p>1 学びつづける人 2 思いやりのある人 3 心身の健康に努力する人</p>	<p>目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像</p>	<p>&lt;学校像&gt;・生徒の能力を高め資質の向上をめざす学校・入学させてよかったと保護者、地域から信頼される学校・教職員も資質の向上を常に心がけ、高め合い組織的に協働できる学校</p> <p>&lt;生徒像&gt;・人権意識、思いやりの心を持ち、自己を大切にしながら他者も尊重できる生徒・将来に対するビジョンを描き、主体的、意欲的に学ぶ生徒・コミュニケーション能力を高め生活に生かせる生徒・地域の一員としての自覚をもち、地域を大切にす生徒・「南中プライド」を常に胸にとどめ、規範意識のある生徒</p> <p>&lt;教師像&gt;・生徒一人一人の理解を深め、生徒のより良い育成に使命感を持って取り組む教師・組織の一員としての自覚を持ちながら学校としての課題の克服に、意欲的に取り組む教師・法令順守意識の向上を図り、説明責任が果たせる服務を実践する教師・日常の授業を大切にす、主体的に学びに向かう授業を行うための研修を励行する教師</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p>	<p>&lt;成果&gt;数学・英語の習熟度別少人数授業の手厚く効果的な授業を行い学習意欲が高まった。学習用タブレットを活用した授業実施に向け研修会や、学年ごとに授業公開期間を3回実施し、教員の指導力が向上し、生徒の学習意欲も高まった。東京2020の結果をオリパラコーナーに掲示し内容を充実させ、生徒にも記憶に残るものとなった。</p> <p>&lt;課題&gt;タブレット端末を効果的に使用し、だれ一人取り残さず個に応じた最適な学びの実現に向け授業改善を進める。不登校生徒の減少を目指し、生徒一人一人に寄り添った人権の尊重、特別支援教育の推進に向け巡回指導員、専門員、コーディネーターとの連携をより深めていく。</p>	

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善 ・「各教科等の連携教育プログラム」の改善実施 ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現 ・学力向上のための補習の充実 ・「eライブラリアドバンス江戸川っ子StudyWeek」の実施	・習熟度別少人数授業(数英)の実施 ・小中共通目標に沿い教育活動と情報交換を行う ・一人一台端末を授業内で効果的に活用し、学習意欲を引き出し、個の学びを支え共同の学びに取り組む ・外部委託による放課後補習教室の実施(数学)と教科と効果的な連携 ・各学期7日間の生徒実施率90%以上	・2月末実施の到達度テストにおいて、前年度以上の結果 ・教員取組評価肯定回答80%以上 ・毎時間授業で活用し、生徒の満足度80%以上 ・年間150回の実施と対象生徒の学力の10%向上 ・各学期7日間の生徒実施率90%以上	A	A	A	先生方の指導に感謝している。生徒一人ひとりを大切にす学力を高め、タブレットを活用した学習を更に充実してほしい。放課後補習教室にも多くの生徒が参加してほしい。	・習熟度別指導推進委員会において、今年度の取組について検討し改善計画を立てる。 ・「各教科等の連携教育プログラム」の改善。 ・学校評価における生徒アンケートの結果の検証。 ・放課後補習教室の連携。
	体力の向上	・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・新体力テストに向けた体育の授業及び部活動における補強運動の取組 ・ロードレース大会の実施により生徒の体力向上とスポーツに取り組む達成感や意欲を高める	・新体力テストにおいて、全学年での平均以上の成果を出す ・ロードレース大会の完走者90%以上	B	B	B	中学生のうちにいろいろな運動を経験させ、体力を向上させたい。昼休みも活発に活動しており、ロードレース大会でも生徒が頑張って走っていて嬉しい。今後も継続してほしい。	・新体力テストの結果を踏まえた補強運動の内容検討と改善。 ・生徒の委員会活動と連携した昼休みの運動の推進。 ・ロードレース大会の課題の改善。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実 ・「読書科」に関する研修の充実	・読書科による活用…各学年5～10回 ・学年ごとにテーマを決めた探究的な学習活動の実施 ・区立図書館職員による学校図書館整備 ・各教科による学校図書館を使った授業の実施 ・異動者や希望者を対象に「読書科」に関する研修会へ参加し、校内で情報を共有及び深化	・活用率80%以上 ・学年ごとに行事と連携し、個人でテーマを決め取り組む ・年間22回実施 ・各学期1回以上 ・異動者の参加100%、取組評価肯定回答80%以上	B	B	B	読書を通して学ぶことは多いと思う。学校図書館の充実ぶりがうかがえる。今後も読書科からの取組を充実してほしい。読書のその先にある探究的な学習を深めてほしい。	・「読書科コンクール」に向け、計画的に取り組む。 ・読書科の探究的な学習活動のまとめと発表を充実させていく。 ・区立図書館職員との連携を強化していく。 ・学校図書館を使った授業を計画的に実施する。
	特別な教科道徳の指導方向上と指導の充実	道徳地区公開授業や研究会などを通じた指導力の向上	・年間35時間の実施 ・校内研修年1回以上、研修会への参加	校内研修実施、生徒アンケート充実度80%	B	B	B	挨拶のある学校を目指して取り組んでほしい。	・今年度の道徳指導をまとめ、次年度へ向けた改善点を共有する。 ・研修会の充実と指導技術の向上。 ・特別支援委員会での情報の共有と、個々の支援の向上。 ・SCIによる研修会の実施とその充実。 ・臨海青海特別支援学校、鹿本特別支援学校との交流に取り組む。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・特別支援委員会隔週1回の実施 ・SCIによる研修会の実施 ・臨海青海特別支援学校、鹿本特別支援学校との交流	・情報共有し、全教員で取り組む ・SCIによる研修会年1回実施 ・各学期に1回の交流の実施	B	B	B	一人ひとりを大切にす丁寧な指導が今後も継続されることを期待している。特別支援学校との交流も、今後増々積極的に進めてほしい。	・今年度の道徳指導をまとめ、次年度へ向けた改善点を共有する。 ・研修会の充実と指導技術の向上。 ・特別支援委員会での情報の共有と、個々の支援の向上。 ・SCIによる研修会の実施とその充実。 ・臨海青海特別支援学校、鹿本特別支援学校との交流に取り組む。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組の強化 ・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チャイルド・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・江戸川区子どもの権利条例の理解 ・SNS学年ルールの取組 ・南中プライドの自覚をもたせ挨拶や朗らかな気質、規範意識をもつ生徒の育成を行う ・不登校生徒への適切な対応を行う ・エンブレツルームの活用促進	・SNSによるトラブル0を目指す ・全生徒が教職員、生徒、地域外部の方への挨拶の徹底 ・不登校生徒の定期的な家庭訪問の実施 ・不登校生徒へ、学校不適応生徒3%以下 ・SSと連携した活用の充実	B	B	B	挨拶があふれる南葛西中を今後も地域で見守りたい。スマートフォンでのトラブルなどもあると思う。今の時代に合った指導を行ってほしい。不登校生徒への対応など引き続き丁寧に取り組んでほしい。	・教育活動全体を通じて、生徒の健全育成に努める。 ・学校全体として人権意識を高め、差別のない一人ひとりに寄り添った学校づくりを行う。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学期ごとに学校関係者評価委員会の実施 ・保護者・生徒アンケートの実施	・学校関係者評価委員会年3回の実施 ・学校に対する満足度を80%以上とする	A	A	A	学校の様子を学校だよりや学校公開、学校評議員会などで知ることができる。今後も協力していきたい。より良い学校づくりに努めてほしい。	・学校関係者評価委員会を実施し評価の検討。 ・保護者・生徒アンケートを実施し、課題と改善点を整理する。保護者の提出率を80%となるよう実施方法を検討する。
	関係機関との連携強化	・スクールソーシャルワーカーとの連携を強化し、生徒や保護者への直接的な支援の実施 ・江戸川児童相談所はあとポートとの連携強化	・地区担当スクールソーシャルワーカーの定期巡回訪問にて、情報を共有し、生徒や保護者への直接的な支援を実施する ・生徒や保護者に関する情報を共有し、連絡を取り合いながら、効果的な支援を実施する	・連絡会年間20回実施 ・定期的な連絡を取り合うとともに緊急事案に対する素早い対応を行う	A	A	A	様々な生徒がいるので、先生方だけでなく地域や関係機関が協力して南葛西中の生徒を見守る必要がある。今後も連携を強めてほしい。	・スクールソーシャルワーカー、江戸川児童相談所との連携、情報共有を継続し、効果的に生徒、保護者に指導をしていく。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・定時退勤日を設定 ・SSS、副校長補佐を活用し、職員の職務軽減を図る ・部活動指導員、外部指導員の活用促進	・月に1回定時退勤日の実施 ・教員の満足度80%以上	A	A	A	先生方のご努力に感謝します。無理なく今後も指導をお願いしたい。部活動指導員の活躍に期待したい。	・定時退勤日の継続実施。 ・職務内容を精選し、SSS、副校長補佐を更に活用する。 ・部活動指導員の効果的な活用。
	持続可能な社会の担い手を育て実践の推進	・持続可能な社会の担い手を育て、教科等横断的な視点に立った実践の推進	・SDGsへの取組を中心とした、研修とその実践 ・区SDGs推進センターと連携し、取組に参加する	・生徒への取組を各学期に1回実施 ・生徒の取組を80%以上とする	A	A	A	校内の掲示物も充実している。江戸川区全体の取組課題をもっと行動していきたい。	・教員、生徒への理解を深めさせ、区SDGs推進センターとの連携、教科等横断的な視点に立ったSDGsに関する授業実践を行っていく。